

## 会 告

## 第 88 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和49年7月29日（月）

本会は第88回講演大会を昭和49年11月3日（日）、4日（月）、5日（火）の3日間近畿大学（東大阪市小若江3111）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和49年7月29日（月）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

## 講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1 講演につき講演15分、討論5分
3. 講演前刷原稿
  - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
  - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれているものとする。
  - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
  - 4) 謝辞は省略して下さい。
  - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
  - 6) タイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
  - 7) 原稿用紙は（次ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは1人3件以内といたします。
6. 申込方法 本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
  - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、鉄と鋼第7号に掲載）
  - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
  - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
  - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
  - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
  - 2) 必要事項が記入されていない申込
  - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
  - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和49年7月29日（月）17時着信まで  
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階  
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

## 講演分類

製		鉄				製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製 鉄 基 礎	原 料 ・ 燃 料	高 炉 製 鉄	特 殊 製 鉄	フ ェ ロ ア ロ イ	製 鉄 耐 火 物	製 鋼 基 礎	溶 解 ・ 精 錬	造 塊	製 鋼 耐 火 物	塑 性 加 工	熱 処 理	表 面 処 理 ・ 防 食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄 造	粉 末 冶 金	溶 接	金 属 物 理	金 属 組 織	鋼 の 性 質	鉄 鋼 材 料	鑄 鉄 ・ 鑄 鋼	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 自 動 制 御	I E そ の 他 技 術	そ の 他

## オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より20日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

## 記

1. 頒布料金 1枚5円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5枚 95円, 20枚 215円, 40枚 375円  
10枚 135円, 25枚 270円, 50枚 500円  
15枚 190円, 30枚 295円

100枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。
3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

## 第1回エレクトロスラグ再溶解に関するシンポジウム講演募集

鉄鋼基礎共同研究会・特殊精錬部会主催

エレクトロスラグ再溶解の物理と化学、および現場作業上の諸問題に関するシンポジウムを下記のように開催いたしますので、御講演をご応募下さいますように御案内いたします。

## 記

1. 期 日 昭和49年9月24日(火) 9:30~17:00  
2. 会 場 名古屋大学工学部大会議室  
(名古屋市中種区不老町)  
3. 講演申込切締日 49年7月20日  
4. 講演予稿原稿締切日 49年8月20日  
(原稿は日本鉄鋼協会用所定のオフセット用紙10枚

以内)

5. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4  
経団連会館ビル3階 日本鉄鋼協会内  
鉄鋼基礎共同研究会特殊精錬部会  
Tel. 03-279-6021

本シンポジウムにおいては、討論時間を充分にとるため御申込みになられた講演の一部を申込み者と協議の上次回にまわさせて頂くこともあるかと存じます。また御講演の内容は既発表のものでも、また別な角度より考察がゆきとどいていればさしつかえありません。

## 昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会討論会

### 討論講演募集のお知らせ

昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会 (北海道地区開催予定) に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

#### 1. 討論会テーマ

- 1) 高炉内における装入物とガスの分布について 座長 島田 俊作  
(内容は追って会告いたします)。

- 2) ESR 法の精錬と鑄塊の品質 座長 井上 道雄

ESR 法は周知のごとく一種の特殊精錬法というべきもので精錬の立場からのみならず、積層凝固による鑄塊の特性という観点からも材質の向上に期待されるところが大きい。1973 年わが国において ESR 国際シンポジウムが開かれ、この分野の基礎的研究面にも多くの関心が高まってきたと思われる。この機会に ESR に関する諸問題を把握し将来の発展の基礎づくりをしたいと考えているので、精錬反応の物理化学 (電気化学的特性、凝固過程を含む) 非金属介在物の挙動などに重点をおいた講演を期待する。

- 3) 圧延 (熱間および冷間) における潤滑の諸問題 座長 鈴木 桂一

圧延油を主体とした圧延の潤滑については、多くの未解決の問題があり、圧延条件がきびしくなるに従い、さらにその問題は複雑化して来る。

今回は、圧延油そのもの、圧延油の供給方法、あるいはそれらの設備などについて討論会を開きたいと思ひます。パーム油によるダイレクト圧延から、鉱油ベースのミルククリーン用圧延油にいたる冷間圧延用圧延油、最近活発に使われはじめた熱間圧延用圧延油、すべてを対象にしております。奮ってご応募下さい。

- 4) 高温における加速酸化 座長 染野 檀

高温における加速酸化に及ぼす諸因子は非常に複雑多岐にわたり、そのため試験法も確立していない状態であります。

この討論会では、i) 試験法、試験条件と耐酸化性の評価、ii) 新しい耐酸化、耐熱材料、iii) 加速酸化機構、などについての実験的研究、従来の研究結果に対する検討、あるいは新しい提案など多数の発表と活発な議論の展開を期待しています。

2. 申込締切日 昭和 50 年 2 月 10 日 (月)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙 (クリーム頁末) に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 50 年 5 月 12 日 (月)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含め 6700 字) にタイプ (12 点) 印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 61 年第 9 号 (昭和 50 年 8 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 61 年第 10 号 (9 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 50 年 9 月下旬

前記第 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

## 昭和 50 年春季 (第 89 回) 講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和 50 年春季 (第 89 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

### 1. 討論会テーマ

- 1) コークス性状の高炉操業に及ぼす影響                      座長 中村 直人  
(内容は追つてお知らせいたします)

- 2) 連铸鑄片の表面性状                      座長 浅野 鋼一

連続鑄造法の導入はめざましく、量的にも質的にも急速に進歩している。

しかしながら、安定した成品を後工程に供給するという面からは、まだまだ研究すべき内容は多い。とくに鑄片の表面疵に関しては、疵の生成機構、パウダーとの関連、最適冷却法など不明な点が多くまだ系統的に理解されていないと考えられるので、今回とくに討論テーマに選び、今後の発展の手がかりにしたい。

- 3) 大型鋼材の熱処理                      座長 田中 実

周知のように極厚鋼板、厚肉の鍛鋼品および鑄造品に優れた機械的性質を付与せしめるためには、それぞれに応じた適正な熱処理法を必要とする。近年鋼材の焼入性の評価をより一層正確にし、少量の残留合金元素の影響が再検討されつつあることも、この一端を反映しているものと考えられる。

本討論会では、上記の大型部品用鋼材の熱処理を中心とし、焼入性、焼もどし脆性、熱処理方法 (スプレー焼入、ローラー焼入など)、また残留応力の推定、除去および変形などにつき会員諸兄の活発な論議意見の交換を期待している。

- 4) 低温用鋼の組織と機械的性質                      座長 荒木 透

液体窒素温度までの極低温に用いる高強度構造用鋼についてつぎの趣旨により講演討論を行なう。

a) 含 Ni 系焼もどしマルテンサイト組織、b) 強化オーステナイト組織、c) Fe-Ni 系 bcc マルテンサイト組織、の各組織を有する鋼において、降伏強度と低温靱性を主体とした機械的性質が成分設計、熱処理、TMT その他の手段により如何に改善しうるか、についての最近の話題を中心とする。

2. 申込締切日                      昭和49年 8 月12日(月)

3. 申込方法                      「鉄と鋼」第7号綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に400字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否                      討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日                      昭和49年11月11日(月)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表                      「鉄と鋼」第61年第1号(昭和50年1月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表                      「鉄と鋼」第61年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日                      昭和50年2月末日  
前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階  
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

## 第27・28回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— テーマ：製鋼技術の現状と今後の展開 ——

主催 日本鉄鋼協会

第27・28回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。

### I 第27回（東京）

- 1) 期日 昭和49年8月27日(火)、28日(水)
- 2) 会場 農協ホール（千代田区大手町1-8-3 農協ビル9階）

### II 第28回（北海道）

- 1) 期日 昭和49年9月9日(月)、10日(火)
- 2) 会場 新日本製鉄室蘭製鉄所本事務所3階講堂（室蘭市仲町12）

### III 演題ならびに講師

第1日	9:30～12:00	真空処理法の諸問題	新日本製鉄	恵藤文二
	13:00～15:00	ESRプラズマなどの再溶解の進歩	日本特殊鋼	沢繁樹
	15:00～17:00	電気炉製鋼の最近の進歩	大同製鋼	牛山博美
第2日	9:30～12:00	純酸素転炉の最近の進歩	日本鋼管	若林専三
	13:00～15:00	連続鑄造の諸問題	川崎製鉄	古茂田敬一
	15:00～17:00	精錬用耐火物の諸問題	新日本製鉄	杉田清

### IV 講演内容

#### 1. 真空処理法の諸問題 恵藤文二

真空処理法のうち最近広く使用されているD-H、R-H、取鍋脱ガス法に就ての現況、問題点並びに高合金鋼特にステンレス製造の際、転炉または電気炉の精錬機能の一部を代行して生産性、品質、生産コスト低減に使用されている真空精錬法について述べる。また各種脱ガス法、真空精錬法の比較および今後の動向についても言及した。

#### 2. ESRプラズマなどの再溶解の進歩 沢繁樹

（内容は追ってお知らせいたします）

#### 3. 電気製鋼の最近の進歩 牛山博美

電気炉における Ultra High Power 操業および助燃法、AODによるステンレス製鋼法、取鍋精錬を主体とした炉外精錬法、還元鉄およびその電気炉における利用など最近注目を浴びている新技術について解説する。

#### 4. 純酸素転炉の最近の進歩 若林専三

ここ数年の転炉技術の進歩は、転炉技術そのものの進歩と、転炉との組み合わせにより新しい特徴を生み出すとする周辺技術の進歩とに大別される。前者としては、(1)大型化高能率化の伸展、(2)環境管理技術の進歩、(3)自動化省力化の促進、(4)計算機制御の積極的導入、(5)炉体寿命の延長、などがあり、転炉による年間1億トン出鋼の原動力となつている。後者としては、(1)前工程の溶鉄脱硫技術の開発、(2)後工程の特殊精錬技術の進歩、などがあり、高級鋼製造技術の発展に寄与している。

#### 5. 連続鑄造の諸問題 古茂田敬一

連続鑄造製品の優位性、ならびに問題点について特に機械構造との関連を述べ、かつこれらの問題点の対策について述べる。

#### 6. 精錬用耐火物の諸問題 杉田清

製鋼プロセスを対象に、精錬用耐火物にみられる最近の技術的傾向と諸問題について、各種の特殊精錬法も含めて概説し、精錬技術と耐火物技術の関連を解説する。

さらに、精錬用耐火物に関する基本的技術事項、すなわちスラグ、溶鋼、脱硫剤と耐火物の相互反応、減圧雰囲気中での耐火物の挙動などについて紹介する。

また、今後の精錬用耐火物の諸課題について若干の展望を試みる。

### V 聴講無料（事前の申込は必要ありません）

### VI テキスト 2500円

### VII 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 千代田区大手町1-9-4 TEL 03-279-6021

## 石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 49 年 7 月 31 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもって、石原・浅田研究助成金制度をもうけ、47 年度より助成金を交付しております。ついては今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者に協会所定の様式をもって応募して下さい。

本会には、昭和 33 年以来故石原特殊製鋼株式会社社長の寄贈による石原米太郎研究資金が設定されておりましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念基金の毎年の金利の過半も研究助成金にあてることになりました。そこで、これらを一括にまとめて石原・浅田研究助成金として昭和 47 年度から交付することとしたものです。

### 記

#### 1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する個人またはグループとし、研究者の年齢は原則として 40 才以下とする。(大学院博士課程学生も含める。)

#### 2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年間とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

#### 3. 交付金額

総額 200 万円以内 (1 件約 40 万円、5 件程度を予定している。)

#### 4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の概略項目は次の通りである。

- (1) 研究課題
- (2) 研究者氏名、所属、他
- (3) 研究の目的
- (4) 研究の実施計画、方法
- (5) 研究の特色、独創的な点
- (6) 従来の研究経過、成果または準備状況
- (7) 同種研究の国内外における研究状況
- (8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会総務部宛

4) 申請締切り 昭和 49 年 7 月 31 日

#### 5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行なう。

#### 6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に会告し、同時に研究代表者に連絡する。

#### 7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究代表者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

#### 8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 3000 字程度の報告書を作成し提出しなければならない。(研究期間終了後 1 カ月以内) また研究成果について発表する際には助成金を受けた旨明示する。

印刷物として発行された場合には、その送付をもって報告書に代えることができる。

なお、助成金についての経理報告は省略することができる。

**第 11 回材料強度に関するシンポジウム**

主催：日本材料学会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか  
 期 日 昭和 49 年 7 月 19 日(金)、20 日(土)  
 会 場 京都大学楽友会館  
 (京都市左京区吉田近衛, TEL (075) 751-2111)  
 市バス, 市電東山近衛下車東入ルスグ  
 参加費 1 名 1,000 円 (当日会場でも受付けます)  
 前刷集 1 部 2,000 円 (当日会場でも頒布します)  
 懇親会 7 月 19 日(金) 午後 6 時 30 ~ 7 時 30 分  
 上記会場内パーラー  
 会費 1 名 2,000 円 (当日会場でも受付けま  
 す)  
 申込方法 代金を添えて下記宛お申込み下さい。この場  
 合とくにご送金内容を明記されるようお願い  
 します。なお整理の都合上あらかじめ申込ま  
 れる場合は 7 月 15 日(月)を締切日としま  
 すが、以後は当日会場でお申込み下さい。  
 〒606 京都市左京区吉田沓殿町 1 の 101  
 日本材料学会 (TEL 761-5321)  
 振替口座 京都 26625 番

**第 14 回真空技術夏季大学のご案内**

主催：日本真空協会  
 日 時 昭和 49 年 8 月 21 日(水) 午後 1 時より  
 22 日(木)  
 23 日(金)  
 24 日(土) 正午 (三泊四日)  
 場 所 愛知県三河三谷 みや温泉 ホテル四海波  
 (東海道線新幹線豊橋, または東海道線  
 三河三谷下車)  
 講師とテーマ  
 真空工学の基礎 東大 富永 五郎  
 真空ポンプと排気系 東京真空機械 山梨 勤  
 原子物理学と真空 千葉大 熊谷 寛夫  
 圧力測定と残留ガス分析 名工大 石川 和雄  
 真空装置のガス出し法 名大 赤石 憲也  
 演習 東大 小林 正典  
 質問会 (世話人)電総研 小野 雅敏  
 超高真空排気系 日電バリアン 麻蒔 立男  
 イオンビームによる加工 茨城通研 長井 一敏  
 イオン窒化 関大 高瀬 孝夫  
 イオンプレーティング 航宇技研 宮川 行雄  
 会 費 一般 35,000 円, 会員 30,000 円 (本会会員  
 も含む)  
 定 員 100 名  
 申込締切 7 月 20 日 (準備の都合もありますので厳守し  
 して下さい)  
 申 込 先 日本真空協会 東京都港区芝公園 3-5-8  
 機械振興会館 512 号  
 電話 (431) 4395(直通) (431) 8211(内) 398  
 申込方法 所定の申込用紙に記入し、会費は振替口座  
 (東京 67153) により御払込の上・お申込下  
 さい。現金は取り扱いません (申込み後は会  
 費を返却いたしません)

**金研夏期講習会案内**

**募 集 要 領**

日 時 昭和 49 年 7 月 22 日(月) から 7 月 27 日(土)  
 までの 6 日間  
 会 場 東北大学 金属材料研究所  
 募集定員 講義ならびに実習 150 名 講義のみ 50 名  
 資料代 (会食, 写真代を含む)  
 (一般) 講義ならびに実習 18,000 円  
 講義のみ 10,000 円  
 (学生) 講義ならびに実習 9,000 円  
 講義のみ 5,000 円  
 受講証書 全課程修了者に交付  
 申込締切 6 月 29 日(土) \* 但し, 旅館斡旋を希望される  
 方は 6 月 22 日(土)  
 申込方法 所定の申込書に所要事項を記入の上, 資料代  
 (現金書留) を添えて下記宛お申し込み下  
 さい。  
 仙台市片平 2 丁目 1 番 1 号  
 東北大学金属材料研究所講習会係  
 TEL 仙台 (0222) (22) 6815  
 代 (27) 6200 内線 2625

**講義科目および講師**

(金属学の一般的基礎的諸問題に関する最近の研究に  
 ついて, 平明な講義を行なう。)  
 金属材料におけるメカノケミカル反応 東北大学 下平 三郎  
 金属結晶の構造とその解析 東北大学 平林 真  
 金属中の水素の拡散と格子欠陥 東北大学 木村 宏  
 超 塑 性 東北大学 和泉 修  
 非晶質金属材料について 東北大学 増本 健  
 材料強度の転位論 東北大学 角野 浩二  
 反応速度論と固体内の速度過程 東北大学 小岩 昌宏  
 最近の複合材料の問題点 東北大学 志村 宗昭  
 衝撃波超高压実験と金属の相転移 東北大学 庄野 安彦

**実習科目**

1 強磁性金属の諸弾性率と内部摩擦の測定 丹治  
 2 鉄鋼の組織 小倉  
 3 高温クリープ試験 村田  
 4 磁気異方性の測定 森田  
 5 鋼中の非金属介在物 福田  
 6 半導体のレーザー照射特性の測定 黒田  
 7 透過電子顕微鏡観察 (初心者向) 菊地  
 8 金属の高圧変態と高压合成 神垣  
 9 電量滴定法による鋼中酸素分析 戸沢  
 10 ガスクロマトグラフィーによる鋼中空素  
 水素分析 細谷  
 11 溶液法による蛍光 X 線分析法 壇崎  
 12 半導体遠赤外吸収測定 千田

\* 実習は A, B 2 組とします。  
 上記の各科目の収容人数は, 1 組についてのものです。

## 金属学会セミナー

## 金属と水素

第1次 日時：昭和49年9月26日(木)～27日(金)  
場所：九州大学図書館視聴覚室  
(福岡市東区箱崎町 電話 092-641-1101)

第2次 日時：昭和49年11月26日(火)～27日(水)  
場所：東京都中小企業会館9階講堂  
(東京都中央区銀座2丁目10-18  
電話 03-542-0121)

## 聴講料(テキスト代を含む)

会 員 6,000円  
非 会 員 10,000円  
学 生 会 員 3,000円  
学 生 非 会 員 3,000円

(本会の会員は会員聴講料とします)

申込締切 第1次・昭和49年9月10日  
第2次・昭和49年11月10日

定 員 第1次70名、第2次200名(ただし定員に達し次第締切ります)

申込要領 所定申込書の各欄ご記入の上、聴講料を添え現金書留、為替、振替 仙台 5592 のいずれでもよい) お申込み下さい。受理次第聴講券をお送りいたします。

申 込 先 980 仙台市大町1丁目1番13号(東活ビル)  
日本金属学会 電話 (0222) 23-3685  
日 程

## 第1日

9:30～11:15 1 水素エネルギーと金属材料  
日 大 神田 英蔵  
11:15～12:30 2 金属中の水素の移動と格子欠陥  
東北大 木村 宏  
13:50～15:00 3 金属表面と水素  
北 大 戸谷 富之  
15:15～17:00 4 金属中の水素の拡散  
九 大 大谷南海男

## 第2日

9:30～11:15 5 金属材料の破壊と水素  
東 大 鈴木 平  
11:15～12:00 6 非鉄材料と水素(I)  
東北大 諸住正太郎  
13:00～14:00 7 非鉄材料と水素(II)  
東北大 諸住正太郎  
14:00～15:45 8 鋼の水素脆性  
新日鉄 南雲 道彦  
16:00～17:00 総合計論

## 金属学会セミナー

## 金属間化合物の物性

第1次 日時：昭和49年9月2日(月)～3日(火)  
場所：日本青年館ホール  
(東京都新宿区霞丘15 電話03-404-4754)

第2次 日時：昭和49年11月1日(金)～2日(土)  
場所：大阪科学技術センター  
(大阪市西区靱1-118 電話 06-443-5321)

## 聴講料(テキスト代を含む)

会 員 6,000円  
非 会 員 10,000円  
学 生 会 員 2,000円  
学 生 非 会 員 3,000円

(本会の会員は会員聴講料とします)

申込締切 第1次・昭和49年8月20日  
第2次・昭和49年10月15日

定 員 第1次150名、第2次150名(ただし定員に達し次第締切ります)

申込要領 所定申込書の各欄ご記入の上、聴講料を添え(現金書留、為替、振替 仙台 5592 のいずれでもよい) お申込み下さい。受理次第聴講券をお送りいたします。

申 込 先 980 仙台市大町1丁目1番13号(東活ビル)  
日本金属学会 電話(0222)23-3685  
日 程

## 第1日

9:30～11:00 1. 金属間化合物概論  
東工大 長倉 繁麿  
11:00～12:30 2. 金属間化合物の格子欠陥  
東北大 井垣 謙三  
13:20～14:50 3. 金属間化合物と規則格子合金  
における拡散  
東北大 平野 賢一  
14:50～16:20 4. 金属間化合物と規則格子合金  
の機械的性質  
東北大 角野 浩二  
16:30～17:00 総合計論

## 第2日

9:30～11:00 5. 金属間化合物半導体の表面現象  
東 大 菅野 卓雄  
11:00～12:30 6. 金属間化合物の磁性  
名 大 安達 健五  
13:20～14:50 7. 金属間化合物の半導体  
金材技研 増本 剛  
14:50～16:20 8. 金属間化合物超電導体  
金材技研 太刀川恭治  
16:30～17:00 総合計論

## 日本学術会議第65回総会報告

日本学術会議広報委員会

日本学術会議第65回総会は、4月24日から3日間、本会議講堂で開かれた。日本分析化学研究所の放射能測定値ねつ造問題に対する会長談話「科学技術行政の抜本的再建について」(日本学術会議月報3月号参照)などをつうじて、本会議に対する社会的関心が高まり、しかも創立25年を迎えた時点での総会である。

〔諸報告〕

冒頭、熊谷義也(7部)、山口省太郎(4部)両新会員及び沖繩からオブザーバーとして参加した新屋敷幸繁沖繩大学教授、松崎吉彦琉球大学教授が紹介されたのち、前総会以降の会長報告を承認した。



運営審議会付置各小委員会から、(1) 本年度予算が若干の単価改訂による微増にとどまった、(2) 物価高に伴う財政難などをめぐり臨時に学・協会との懇談会を開いた、(3) ユネスコの「科学研究者の地位に関する国際勧告草案」に対し、これを積極的に支持する趣旨の見解をユネスコ国内委員会に参考として送った、(4) 本会議25年史が近く発行され、また25周年を記念して、科学者との結びつきを強化するため各地方区で講演会などを計画中である、などが報告され了承された。

常置委員会関係では、科学者の待遇問題委員会から、大学の科学者の待遇に関する調査結果、長期研究計画委員会から、「学術情報体制について」、学術体制委員会から、「学術体制基本問題」がそれぞれ中間報告された。また学問・思想の自由委員会からは、中島篤之助氏の原子炉事故論文に対し原子力研究所が行った「厳重注意」措置はとくにゆるがせにできない問題を含み、深甚の憂慮を禁じ得ないという審議結果に到達したこと、また国会に上程中の「靖国神社法案」について重大な関心をもって注視したい旨のべられた。

特別委員会からは、重要な報告が比較的詳細に行われた。いよいよ第9期のとりまとめの時期に入ったからである。科学の基本問題特別委員会からは「科学・技術憲章(仮称)」、都市・地域・国土特別委員会からは「国土環境宣言(仮称)」の草案が報告された。また産業・国民生活特別委員会からは、資源エネルギー問題へのとりくみについて、「国民生活の自立的発展」、学際的・国際的な研究連けいという視点が提起され、各専門分野から活発に討議された。沖縄問題特別委員会からは、180頁に及ぶ「沖縄における学術研究体制の現状と課題」が中間報告された。これに関連して沖縄からのオブザーバーが沖縄の科学者問題に対する本会議の努力に謝意を表明し大きな拍手をうけた。

#### 〔提案審議〕

本総会には勧告6、申入れ3、声明1、申合せ5が提案され、採択された。

まず前述分析化学研究所問題にかかわって、国民の安全を守り環境を保全するために、環境放射能調査・評価

体制の確立を要望する勧告が採択され、さらに1954年本会議第17回総会で議決した、自主・民主・公開の原子力三原則を、安全性の確保のためにも政府施策にきびしく貫くことを求める勧告を採択した。またユネスコの「国際勧告案」に関しては、この文書が「とくに科学研究の公民的及び倫理的側面を強調したことは、内外の科学者にとってきわめて重要な意義をもつこと」を指摘し日本政府にこれが実現に積極的にとりくむことを期待する声明を採択し、さらに前述本会議ユネスコ小委員会の見解を付して、同草案討議のため開催中の「政府専門家特別委員会」はじめ、学・協会その他関係方面に送付することをきめた。さらに社会福祉の研究・教育体制の充実、児童福祉、障害児・者の教育・福祉関係の教職員養成制度の改善、障害児・者の教育権保障を内容とする勧告を採択した。これは本会議が採択した最初の社会福祉関係勧告である。

この外、「システム科学研究所」の設置についての勧告を採択したが、これについては、システム科学の有効性と限界についての討論が行われ、ひろく各分野からの意見が活発にかわされた。また国際共同観測事業としての「国際海洋研究10年計画(IDOE)の実施について」、「国際地質対比計画(IGCP)の実施について」の勧告が採択された。さらに学・協会から強い要望のあった「学術雑誌の郵便料金などについて」の申入れをきめたほか、「日本教育情報センターの設置運営について」、「学生国際交流制度について」の申入れをきめ、国際環境保全科学会議の開催について正式の組織委員会を発足させることを決定した。最後に第9期の総括・とりまとめを本会議25年の成果をふまえ、本会議の力を結集してすすめることを申し合せた。

第3日冒頭、伏見副会長名でAAAS(全米学術振興協会)に提出された講演要項に、本会議に関し国際的誤解をまねく表現のあることが多くの会員から指摘され、同副会長は遺憾の意とともに、今後学術会議の総意にもとづいて慎重に言動することを表明した。

出席率は、3日間それぞれ91、88、85%であった。